

ポータブルスキル

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長 田中 宏



近年、厚生労働省が提唱しているのがポータブルスキルである。

ポータブルスキルとは「業種や職種が変わっても通用する持ち運び可能な能力」のことをいう。このスキルは自施設でのキャリアアップや転職などに有利になるといわれている。大きく分けると5つのスキルに分類され①専門知識・技術②仕事のし方③人との関わり方④環境変化への適応のし方⑤適応しやすい職場の特徴、である。では、持ち運びできない能力とは何か。それは、社内のローカルルールなどをいう。

私たちの業種で例えるならば、①はガイドラインに基づいた検査法や医療安全や感染管理などがこれにあたるであろう。②は仕事の組み立て方である。③は社外対応と社内対応がある。私たちの場合、身近に考えれば、他科と検査ルールや予約枠の調整業務も含めてよいと思う。④は、指示待ちではなく自ら積極的に行動する。前向きで建設的に考える。人に対して開放的で親しみを感じられる。謙虚に他人の意見に耳を傾ける。環境変化を受け入れ変化を恐れない。などのソフトな内容となっている。そして持ち運びできないローカルルールとは、自分の施設だけの検査法やお作法、となるであろう。

新卒から同じ施設で働いてきた人は、勤務経験が長く、その道のベテランである。しか

し、ポータブルスキルとローカルスキルの区別が難しいといわれている。その施設ではベテランであったのに、他施設に異動や転職するとそうではなくなる。という話は少なくない。そして、医療職は専門家が多く存在し、専門性が高くなるほど変化に対応することが難しいともいわれている。近年、転職やヘッドハンティングや病院買収などは珍しくなく、さらに年功序列が崩れ去った。専門家であるからこそ、これらの環境の変化に適応が難しいともいわれている。

私たち診療放射線技師は専門性が高い。故に、私を含めて、このポータブルスキルは決して高いとはいえない。

では、どのようにすれば、ポータブルスキルを身に付けられるのか。あえてそのためだけに転職するのはリスクが大きすぎる。学会や研究会、地域ボランティアなど組織形態があり、目的とする事業遂行がある団体への参加が最も効果的である。自分の施設だけにこもっていても、自分を客観視することはできないからである。何事も答えは一つではなく、時と場合によってアプローチは変わる。さまざまな場面での数多い経験値が空気を読む力を蓄えることになる。

診療放射線技師も専門性だけでなく「人間力」も欠かせない能力である。